

今までは他品種と比較して仮払金が安かったということ、収穫量が多いという話の割に実際の収穫量は少ないことがあげられる。JAでは、「いわてっこ」の作付拡大を計画しており、市でも作付面積を増加させるためにカラムシ対策補助金の加算助成や、収穫量増加に向けた栽培技術指導等を行っている。これらの支援策については集落座談会等、機会をとらえて周知徹底を図っている。

全国わさび生産者大会に向けた栽培の拡大を

問 わさび振興に対する取り組みはどうなっているか。

答 現在、わさび生産者協議会に18名加入しており、その中で栽培の拡大に向けた取り組みをしている。

問 現在の栽培面積はいくらか。

答 わさび田の面積は3.5haほどである。

問 昨年の議会で、市長は平成26年度島根県



市内の林間わさび

築地市場のわさび競り風景

で開催される全国生産者大会の次期開催地として遠野市に誘致したいと答弁している。しかし、その目標に向かった栽培振興が鈍いのではないかと。

答 全国わさび生産者協議会役員会に遠野市での開催誘致（平成29年）の意向を伝えていく。わさびの生産拡大には湧水が重要であり、栽培適地や生産者の掘り起こしをしながら進めたい。

問 湧水を使わない林間わさびの栽培もある。恵まれた環境を活かした遠野わさびの産地形成を図るべきでは。

答 岩泉町では原料わさびとして林間わさびを25ha栽培している。わさびバイオ公社でも15aの試験栽培をしているが、原料わさびは需要があることから、アストパワーアップ事業で推進したい。根わさびについても補助での掘り起しを図る。

問 わさびバイオ公社が努力していることで注目を受けている。ここは攻めていくべきと思うがどうか。

答 公社が取り組んでいることを行政も真摯に受け止め、どの様な支援をしたらまだまだ伸ばせるか、しっかりと取り組んでいきたい。

SL停車場プロジェクトの内容を問う

問 現時点でのメインプログラムは。

答 25年度の取り組みとしては、推進本部を立ち上げており、これ

から専門部会を開きながらSL運行に関わるPRを行うほか、商品開発や旅行企画等を考えている。

問 遠野市全体が観光資源と思うが、エリア別観光開発の考え方は。

答 釜石線沿線の各自治体との連携や、例えば遠野遺産を生かした四季折々の通年企画等を作りたいたいと考えている。

問 SL停車場の名称にこだわった理由は。

答 停車する各駅には沢山の方々に降り立つて頂きたいため。

問 釜石線沿線の活性化には陸路も考える必要があるのではないかと。

答 SLだけではなく広域的な観光振興の視点でも考えていきたい。



SLを待ちわびる人々

廃校の学校備品の利用を考えるべきでは

問 中学校統合で使わなくなった机や椅子の今後の利活用方法は。

答 新設中学校では東中と西中は新品が入り、遠野中は新品補充のほかに現在使っているものを修理して使う予定。

問 余った机や椅子は農作業で使えば効率があがる。農作業等で様々な活用方法が考えられるが。

答 沿岸被災地の学校から要望があり、30程の机、椅子を贈る予定のほか、市内小学校や地域でも使えるように考えている。

問 体育用具やステージ等の備品が重複した場合、地域で活用できると思うが。

答 その他設備も同様の扱いである。新設中学校で使えるものは持って行き、それ以外は小学校、次が地域といった具合に順番に進めることとし、1学期中にはめどを付けたいと考えている。

赤羽根スキー場への遠野ケーブル敷設は

問 赤羽根スキー場への携帯電話基地局設置を要望していくことは了解したが、同スキー場には今シーズンも一人くらい入りのみがあるとされる。一番危惧されるのは緊急時の情報提供ということになる。取りあえずは、遠野テレビのケーブルを同スキー場に持っていくことを急ぐべきではないか。

答 問題は通信事業者の選定や協力体制であり、事業者が協力に働き掛けながら、できるだけ早く実現できるようにと考えている。光ケーブル敷設については平成26、27年度と考えているが、市の設備だけでなく、通信事業者と一体となって施設整備したほうがいいのではないかと。今検討している段階で、25年度は通信事業者と連携をより密にし、その辺の方策が早めに行きたい。